

**2025.2**

---

**川崎市史市制100周年記念版  
令和6年度ワークショップ<sup>o</sup>報告書**

---

# はじめに

---

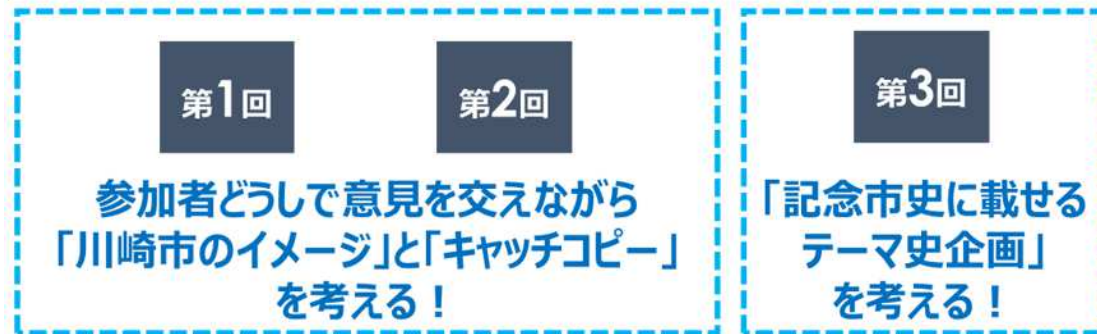
『川崎市史市制100周年記念版（以下、記念市史）』は、川崎市を「知って、関わって、好きになってもらう」ことを目指して制作する、**新しいかたちの川崎市史**です。

- ・親しみやすく、手に取りやすいものとする
- ・川崎市の歴史や文化を知ってもらい次世代につなげる
- ・市民に制作プロセスに関わってもらう

以上を目的として制作していくため、市民が積極的に記念市史づくりに参加できる場として、ワークショップを開催します。

**令和6年度は、記念市史の内容や書名に関するさまざまなアイデアを募る場として、全3回のワークショップを実施しました。**

# ワークショップの構成



- ◎参加者の属性を考慮  
(性別、年齢、出身行政区)
- ◎地域性に配慮して会場を選定  
(北部・中部・南部で  
1回ずつ開催)

# 本ワークショップの特長：グラフィックレコーディング

本事業のワークショップでは、「グラフィックレコーディング」の手法を採用しています。

グラフィックレコーディングはいわば【絵の議事録】です。

意見をリアルタイムに絵にすることにより、アイデアやイメージの共有がスムーズになって、議論が活性化します。

## 通常のワークショップ

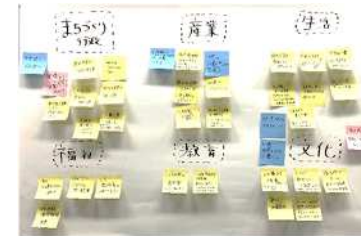
意見交換・アイデア出し



付せんに書きだす・発表



付せんの整列・分類⇒結論



・「見た」だけで結論は分かりづらい

・結論を言葉で説明する必要がある

## グラフィックレコーディング

意見交換・アイデア出し 付せんに書きだす・発表



「絵」が結論を表現！



・「見た」だけで結論がわかる

・ワークショップの参加者でなくても、話し合いのゴールが理解しやすい

# 第1回 川崎のイメージをグラフィックにする

2025年1月25日（土）10:00～12:30 会場：川崎市産業振興会館（川崎区）

参加者：15名

第1回ワークショップでは、グラフィックレコーディングを活用して川崎についてのイメージをまとめました。

3つの班に分かれて会話をしながら、川崎に対してもっているイメージや特徴などを付せんに書きだし、それを、川崎史の地図が大きく印刷された模造紙に貼っていきました。

後半では、各班から発表される川崎の特徴を、グラフィックファシリテーター（長縄美紀さん）が即座にイラストにして地図に書き込み、参加者全員の意見の入ったカラフルなイメージマップをつくりました。



「川崎の名所や特徴」、  
「魅力的なところ」などを  
付せんにどんどん書きだします



付せんに白地図に貼って  
班のメンバーと意見交換をしました



参加者からの意見を表したグラフィックの内容を、  
ファシリテーターの長縄さんとの間で確認しました

## 第2回 イメージマップを完成させ、キャッチコピーを考える

2025年2月1日（土）10:00～12:30 会場：川崎市総合自治会館（中原区）

参加者：13名

第2回では、第1回で付せんを貼り付けた白地図を眺め、「共感できる」「より詳しく知りたい」と感じるイメージや特徴が書かれている付せんに丸シールを貼って投票しました。そして、得票数が多かったものを描き加え、いよいよ、川崎のイメージマップが完成しました！

後半は、「完成したイメージマップのキャッチコピーを考えよう」という議題を通して、記念市史の書名へ想像を広げました。



付せんでいっぱいになった白地図を眺め  
投票先を探す参加者の方々



議論したキャッチコピー案を  
班ごとに発表しました



自作のフリップで、  
書名案を提案くださった参加者も！

## 第3回 記念市史に載せる「テーマ史企画案」を考える

2025年2月8日（土）10:00～12:30 会場：新百合トウェンティホール（麻生区）

参加者：14名

ワークショップ最終回では、記念市史に載せたい企画案を考えました。

いったん3班に分かれて、それぞれが考えてきたアイデアを議論したのち、参加者全員が車座になって、ひとりずつ意見を発表しました。

今回もグラフィックレコーディングを活用し、長縄さんが、参加者の似顔絵と共に意見をイラスト化。さまざまな角度や視点から数多くのアイデアや企画が集まりました。



あらかじめ考えてきていた企画案を付せんに書きだす参加者の方



班ごとに議論した結果と、自分の企画案をひとりずつ発表しました



参加者の似顔絵とアイデアを1枚にまとめて描きだし、一期一会のグラフィックが完成しました

# 参加者からのおもな意見

---

## 【川崎の名所・魅力・特徴】 第1回&第2回ワークショップより

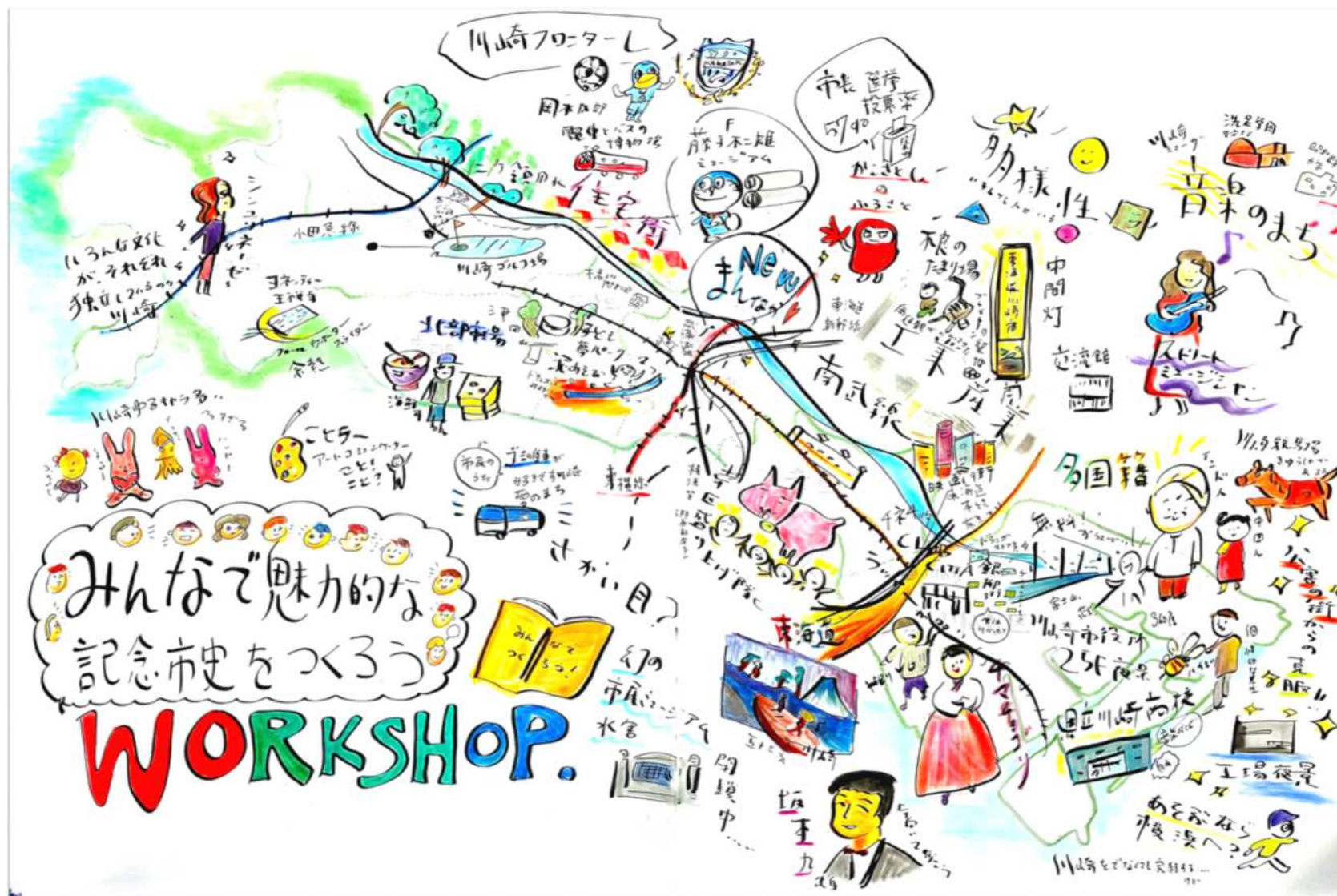
・ 東海道川崎宿
・ 南武線（川崎をつなぐ鉄道）
・ 幸区もりあげ隊（市民活動が盛ん）
・ 工業産業の発展に寄与してきた
・ 県立川崎高校（校則や学風が自由）
・ 川崎市庁舎25階からの展望
・ 多摩川の豊かな自然
・ 北部市場で食べられる海鮮丼
・ 新百合ネーゼ（東京と近い川崎）
・ 川崎の真ん中！？中原区
・ 住む人の多様性が高い
・ かこさとしのふるさと
・ 藤子・F・不二雄

・ 工場夜景（公害からの復活という視点でも）
・ 銀柳街のドラッグストアが豊富なのは何故か
・ 「すきです川崎愛の街」（市民の歌）
・ 坂本九（ルフロンで追悼イベント開催）
・ 市長選の投票率が大都市ナンバーワン
・ ヨネッティー王禅寺（充実した室内プール）
・ 馬がいる（競馬）
・ （幻の）市民ミュージアム
・ 不良のたまり場（大きなガラスの前でブレイキンの練習が流行）
・ 子ども夢パーク（泥遊びができる公園。多様な子どもの居場所）
・ チネチッタ（映画街。集客ナンバーワン）
・ ことラー（アートコミュニケーター）
・ 川崎フロンターレ（市民との一体感が素晴らしい）

⇒グラフィックレコーディングで「川崎イメージマップ（次ページ参照）」に集約しました



# グラフィック① 川崎イメージマップ



# 参加者からのおもな意見

---

[川崎のキャッチコピー] 第2回ワークショップより

キャッチコピー案	込めた思い・意図
155万通りの愛の街	ふところの深さ、人口
キャラ155万の街	
ヒストリーよりミステリー	ミステリー、謎、疑問
川崎って何だ？	
川崎ははじめからひとつだった	意外な歴史事実でひきつける書名案
カワサキカラー	多様性を色で表現
知ろう、そしてつながろう川崎	7区をひとつにつなげたい

⇒書名（書籍タイトル）の原案として検討します

# 参加者からのおもな意見

## [記念市史の企画案] 第3回ワークショップより

「市民と一体！ 川崎フロンターレ」	「公園のビフォーアフター（遊具一覧も）」
「ビジュアル推し！の川崎市史」	「寄付やクラファン、ふるさと納税の歴史」
「私鉄が進めてきた街づくりの歴史」	「かわさき給食史」
「戦争の経験」	「歴史的人物になりきっての仮想対談」
「川崎大師グルメ史」	「百人ポスター（地元の有名人が掲載）を特集」
「校外学習のテーマ変遷」	「かわさき初めて物語」
「地域の野菜」	「臨海部の夜景をQRで見られる工夫を」
「川崎ダンス今昔」	「リサイクル拠点を取材（ペットボトルが水素になるまでを追う）」
「あの頃の車両史」	「歴史ある銘菓がどう生まれたか（大師巻、追分まんじゅう）」
「ハルモニの歴史から条例制定までの歴史」	「市税の使い道の変遷」
「防災都市かわさき」	「川崎市民の助け合い・ボランティア精神の由来を探る」
「交通史と産業史を融合して語る」	「公害と川崎の発展の歴史」
「橘郡と市域の差異（どうやって市の輪郭が決まったか）」	「川崎からデパートがなくなった理由を探る」
「なぜ、かわさき縦断鉄道が実現しなかったのか」	「東海道の話」
「宮前区のマニアスポット（世界的に有名な美術館、五所塚）」	「おむすびの歴史」
「かわさき急坂ランキング」	「公害がもたらした良いこともある、という歴史」

⇒発案者の似顔絵とともに、グラフィックレコーディングに集約しました（次ページ参照）

⇒記念市史のコンテンツとして採用を検討します



## 参加者からの感想 [アンケートから抜粋・要約]

---

様々な意見や考えをうかがって、川崎市の見方が変わったと思います。

初めてのグラフィックレコーディングでしたが、言葉ではなく絵で見ることでとてもイメージしやすく、楽しく参加させていただきました。

皆様の意見や、他の区の方との交流が楽しかったです。

川崎市史の出来上がりが楽しみです。

グラフィックの完成度が高くてとても勉強になりました。

アイデア出しをすることで、自分以外の情報も見られてよかったです。

市史をまとめるには回数が少ないように感じました。引き続きの開催を期待します。

ずっと川崎に住んでいましたが知らないことがたくさんで、いろいろな区の方のお話が聞けてとても楽しく、改めて川崎について考える貴重な機会をいただけて有り難く思います。

# 参加者の皆様とさまざまな意見を集約したグラフィック

